

武雄市議会だより

栄八通信

第 28 号

14710 月末発行



武雄市議会議員
宮本 栄八
TEL・FAX 23-0750
携帯 090-5083-0793

結局
どちらが
安いのか？

黒ぬり市長車廃止の顛末 「市民感情」を考慮してハイブリッド 4WDから、普通の4WDへ

今、9月議会で、一番の論議となったのは、前6月議会と同じ、市長公用車購入の問題でした。6月議会では、権威の象徴である、黒塗り高級車を廃止し、災害現場にかけつけられる、4WD（4輪駆動車）で、ただ燃費が悪いことから、バッテリー電気を併用する、ハイブリッド車で、燃費を減らし、また、排ガスも少なく自然環境にも良いので購入したいとの提案であった。

その時も、問題になったのは、ハイブリッド車が、4百万円以上もする高級車であったことから、反対の声も上っていた。しかし、結局、多数の賛成で可決したのは、執行部から、示された経費の比較表で、ハイブリッド車の車体価格は高いが、燃費が少ないので、ガソリン車に比べ10年間にすれば、約120万円安くなる。総合的には、経済的との説明を信じての賛成であった。

しかし、9月議会の「市長提案事項説明要旨」いわゆる「演告」の中に、一行程度で、「購入予定の公用車は、災害時に出勤可能な車に特化させ、既決の予算の範囲内で購入する。」との事務的な記載で、変更されていた。要は、ハイブリッド4WDを止めて、単なる4WDを買うことにするとのこと。変更の理由は、高級な市長車購入に、住民懇談会などで批判が多かったために、市民感情を考慮して変えたとの補足説明のみ。私は、6月は賛成したが、9月の変更には反対しました。その理由は、2つの観点からで、①市民の目に耳を傾けるのは、大変立派な事と思うが、燃費を総合すればハイブリッド4WDの方が安くなるとの説明を十分にした上で、市民の目と耳を傾けるならば、納得しないと思う。私たち議員も、説明を聞いて理解したわけであるので、同じ説明をした後に、意見を聞かなければ意味がないと考える。結局、今度の単なる4WDでは車体価格は安いですが、燃費を合計すれば高くつき、年に何回あるかの災害のために毎日、タイヤの安い燃費の悪い車輦を運行する最悪の選択になったのではないかと考える。それなら、逆に、プリウスなどの中型ハイブリッドの乗用車を、常用して、災害時に、市役所に5台ある、4WDを、市長が優先して使用する方が効率的と思う。②もう一点、問題と思うのが、変更後に、買う4WD車について具体的な、車種や排気量を議会に示さないで、事を進めようとする姿勢に、不信をいだいている。



予定のハイブリッド4WD、変更後は不明

がばいばあちゃんロケのあとは、 年賀状作戦あり、登り窯・食育サミットへ

佐賀のがばいばあちゃんロケも一応終了した。市長の話によれば、全国6ヶ所の候補地の中から選ばれたらしい。議員としては、市の支出なしに選ばれれば、一番良いのだが、1千5百万円の自主財源から支出となれば、そう簡単ではない。ただ、支出の1千5百万円は、スタッフ等の宿泊費用がほとんどで、地元に着るとの説明。ただこれまで、行革で、お祭り

市長の言う お祭り一本化の身 （物産まつりは変わるかも）

樋渡市長は、武雄市のお祭りの一本化によって、岸和田のだんじりのように、全国的に有名な祭りにしたという意向のようだ。気持ちには分るし、自分自身もそう考えて、数年間動いた事もあるからこそ、どうなるのか、注目していた。今議会でも、多くの議員の質問があり、総合すると、お祭り一本化の対象となるのは、旧武雄市のお祭り振興会として補助金を受けている行事を、1本ないし2本に集

エレベーターは作らない。 新庁舎建設の為か？

今6月議会の、議員との市長のやりとりの中で、市長が、新庁舎建設を口に出さないが、そう考えているに違いない発言が多かった。まず、古庄市長時代には内部にエレベーターを作る場所がないので、外付けで作る意向があった。しかし、樋渡市長は、足の不自由な方は、職員が抱えて上がる。ま

の計画で、結果、2倍の1千万円が集ったと言う。思わぬ増収になったが、ロケが雨や台風で、再度10月中にも増えた為、その経費増額に対応できたと言う。

また、黄色のスタッフTシャツ千枚が売れ、別に物産館でも一般Tシャツも売れていて、スタッフTシャツから千円・一般Tシャツから500円の協賛金が入る予定。今後は、フジテレビ、1月の放映の視聴率アップの為に年賀状でPRすると言う。市長は、千枚出すとのこと。また、市長は、今後登り窯や、食育課を作り、サミットを開くなどに取り組むと言う。

議員からは、各町からシャトルバスを出すよう提案されたが、市長は考えてないとの答えだが、現在の旧武雄市の物産まつりも、駅からのシャトルバスが出ていて、市も出さざるを得ないと予測する。

結局、私の考えでは、秋祭りのやぶさめを中心とした部分をグレードアップする方向になると思うが、期日が、伊万里のトンネンと同期間や、供日が10月22・23日とまわって土日でないので会社勤めの人が協力しにくく、考え方は、北九州市の形で、おっしょい百万夏まつりの様な合併新市の祭を新に作る方が話しが早いかもしれないとも考える。

た、現庁舎は、耐震性が無い。また、新幹線が通れば、庁舎に接近して業務がやりづらいなど、将来的に、この場所が良いのか考慮する必要があるとの主旨の発言があり、そう思わざるを得ない。また、建設するとすれば、合併特例債の期限の残りの9年間に実施することになると考えられ、ただ、全面移転なのか、別館増築なのか、耐震補強と一部増築なのかを、早目に明確にしてほしい。そうでなければエレベーター設置や市民ホー



今後の動向が注目される庁舎

病後児保育

来年度実施を明言！

私としては、H15年の選挙公約から、ずっと求めて来た、政策がやっと実施が具体化し市民の方に責任が果せてはとっています。

この病後時保育は、一般の方にはなじみがない言葉かもしれませんが、たとえば、共稼ぎの家庭では、子供を保育園にあずけて会社に行くのですが、カゼや熱などで病気がひどい時は、当然会社を無理しても休まざるを得ません。

しかし、ある程度回復しても、保育園等は、他の子供への感染を予防する為や、その子供に付ききりで急変に対応することが困難なため、完治するまで、通園を数日断られる事もあります。

そこで、元々、子供が保育園に行くことを前提に、就職している共稼ぎの親にとって、そう会社を何日も休むことは、都会の大企業ならまだしも、地方の企業では、できない状況です。

その対策として、考えられたものですが、現在、佐賀市・唐津市・鳥栖市と嬉野市にあります。

武雄市もこれまで、国の子育て支援に基いて、5年ぐらい前からエンゼルプランなど、3回も計画を立てましたが、ほとんど計画止まりでした。全国的にも同様で、

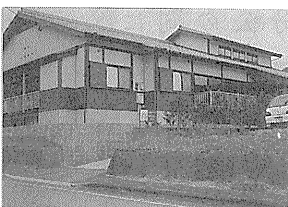
国は、少子化対策もあり、再度、「次世代育成支援行動計画」と言う、アクションプランを作らせ、

ズ（必要性）調査を1年、また実施年次を明確にした計画を1年の、2年がかりで、H17年3月に策定させました。

私は、以前の武雄市エンゼルプランにも、病後児保育が上げられていたし、私も、その立場になって、実家のばあちゃんがいらない時

の負担を市が行っているの、気がなく利用して下さい。

また、来年度から、制度化する朝日町のぬくもりホーム太陽も、現在、独自に受け入れはされているが、来年度、県の制度を利用し市の事業として委託すれば、1日4、000円が、半額の2、000円に安くなると思われる。



ぬくもりホーム太陽

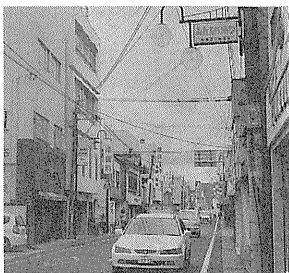
空舎の活用計画

山内・北方旧庁舎

今議会、合併により、旧武雄市の本庁に集約されたため、旧北方町・山内町の庁舎を、福祉団体やボランティアサークル等に、貸し出す方針も示された。

現在、どう活用するか、計画が作られて素案はあるが、確定ではないとの事。利用を希望される団体等は、市企画課へ問い合わせる。また、パブリックコメントと云って、市民の提案も求める予定とのこと。

- 子育て総合支援センター 北方
- 障害者総合支援センター 山内
- 各種団体スペース 山内・北方
- 図書室 山内の2F
- 企業貸出事務所 北方山内の3F



おれんぢ通り

松原商店街

おれんぢ通り 外路灯再点灯へ

駅から、武雄温泉の間の中心をなす松原商店街、25年前は、一つの空洞舗もなく繁盛していたが、全国共通であるが、空洞化が進んでいる。

以前、県の補助を活用して、外路灯が商店街で整備されていたが、商店数の減少により既存店の負担が増大し昨年から、何灯かを残し、あとは消されていた。

市民からも、武雄の玄関として市に対応を求める声も出ていた。ただ、商店街の電気代を補助している自治体は、ほとんどなく、市も対応に苦慮していました。

樋渡市長が、6月議会で、市と地元と企業協賛の1/2の負担で、電気代を出すの方針を出された。ただ、私は、企業協賛は、都会のような、超大企業がいるわけでもなく、実現は難しいのではないかと考えていました。

今9月議会で、電気代補助制度実施の今後についてたずねると、あっさり止めたとの方針変更だった。しかし、今回、九電のアドバースで、電球のワット数がある程度下げても、照明はあまり変わらないうえ、現在の80Wの電球を80Wに下げる方法が考えられた。

そこで、市は「商店街賑わい創出事業」の要綱を作り、改修費の1/2を助成することとなった。

これによって、松原商店街の電球が、年間約75万円から、31万円に削減されると言う。

どうなる、温泉街観光基盤整備

がばいばあちゃん、PRしているが、次は来訪者への対応として観光基盤整備が必要と思う。そこで、市長の考えを聞いた。

温泉新道の改良(市道)

松原交差点から、宮崎薬局本店の間の道。平行して走る「おんせん通り」(県道)と交換して、県に整備をお願いするとの従来の方針だった。

ただ、古庄前市長は、交換交渉が先延ばしの状況なので、市単独事業で実施するとの方針に変更。そこで、新樋渡市長はどう進めるつもりかを、尋ねた。

●市長は、「私には、めずらしくどうするか、迷っている」の返答。

さぎの森広場駐車場化

市長は、温泉街を散策させる事や、武雄温泉の広場に、車を止めず昔の景観を復活する為に、さぎの森の、無料駐車場化を打ち出され、私も同意見で期待している。

ただ、その後、動きが見えず、どう進めるか？をたずねた。

●市長は、「無料解放すれば、管理の問題がある。また、さぎの森で、時々、農家に物産販売をしてもらう。」と、以前からの、担当者、できない理由の受売り。

まちなか広場の整備

南国ビルを移転させ、市役所前の中央公園と一体化した、大規模のまちなか広場を計画してある。

ただ今議会、中央公園の整備の予算が上がっているが、公園全体の計画を明確にし着手すべきを問うた。

市は、「中央公園は、別に整備する」との答え。それなら、合併で手狭の市役所駐車場の拡張も考えるべきと注文した。

保養村整備の今後

前6月議会で、「市民の望む親子が1日遊べる公園について、保養村は、地形的に平坦部が少なく、別の場所が整備しやすいと言う声もある。」と市長に聞いた。

市長は、第3次保育村整備計画に基いて整備するとの答えだった。しかし、ここ数年間保養村整備計画を担当し、実施に着手されるであろうと思われる職員は、急にがばいばあちゃん課に来ている。

また具体的な、事業実施の動きもないが、今後どう進めて行くのかを9月議会でもたずねた。

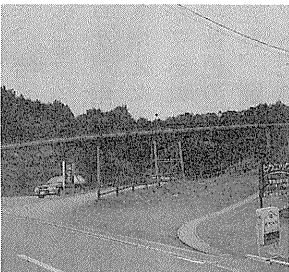
市長は、保養村に、新に宿泊施設の誘致を図る。また、保養村の名称のイメージが良くないので、新しいネーミングを付けたいと言う。

もともと、保養村の一角には、民間の宿泊所やセミナーハウスを誘致するようになっていた。しかし、バブル崩壊などで、宿泊所誘致は無理として、白紙化されていた。

今回、市長の、宿泊施設誘致の方針は判ったので、次回、具体的な誘致構想を聞いてみたい。

一方、私の答えてはしなかった、子供の遊び場としての保養村については答えてもらえなかったが、それについても早期に具体的な実施をしていただくよう注文をした。

※現在、新武雄市の観光パンフレットを作成しているの、保養村の名称を変えるなら、早急にした方が良く考えている。



子供の遊び場予定地

合併特例債8億円は 初活用 通常の事業費へ

H18年度分

かけこみ合併の、主な目的は、合併特例債の活用でした。

新武雄市もいよいよ、特例債を活用しました。ここで再度、制度をおさらいすると、H17年3月までに合併すると、事業費の5%を用意すると、国が、95%の借金を認めてくれ、その内の70%を地方交付税で補填してくれる制度で、結局、市の持出しは、100万円の事業ならば、約35万円の持出しで有利な制度である。

以前より言っているが、「借金は借金」と言って活用しない方がよいとの意見もあるが、私は65%の補助金と考えている。

だから、新市建設計画で利用枠173億円の半分しか活用しないという方針に不満をもっている。

私の考えでは、国は高額の特例債と言う、にんじんを目の前に見せて、合併を決めたら、逆に健全財政と地方を心配した様な形で、にんじんを半分減らそうとしていると見ています。

また、半分に減らすにあたっては国からではなく、市町村が自らセーブした形にもって行かされてると感じている。それに気づいたのは、早期に合併した自治体が、ほぼ全額を利用しているのに、後半に合併しようとしている合併協議会のホームページを多く見た時、どれも同じように、判を押したように、特例債の利用を半分に設定していることに気づいたからです。

だから旧武雄市の時に、特例債をもっと利用すること、利用に当たっては、道路や下水道や学校改築など、いづれ独自にやらなければならぬ事業に当て、不用な箱物建設や無駄遣いを心配される市



高架も進み出した

民にも安心していただく努力も必要と言ってきた。

当時の、岩谷総務部長から、「合併から10年間は、必要があれば利用枠は変更できる。」と、含みのある答弁は、確保している。

また、新武雄市になって、6月議会まで、特例債活用にあたって、市民の意見を聞いて、活用して欲しいと問うたが、答は、「現在市民の声を聞くことは考えていない」との主旨の答弁だった。

これを、善意にとらえるならば地元からの箱物の要望が、どんどん出て来たら、混乱し収拾がつかない事を心配しての発言かもしれないが、やはり、どこかの時点では、市民の声を把握も期待する。

前置きが長くなったが、今9月補正予算に、出された、特例債の額は、8億5千万5百万円で、新市建設計画86億円を10年で活用し、年8億円程度を利用する計画のH18年度分全額を今回確保している。

ところで、一番関心のある、活用事業は何かと言うと、32件と細切れで、市道改良整備関係が25ヶ所と多く、金額の大きいものから上げると、東川登小改築の2億2千5百万円・北方中大規模改築1億7百万円・JR佐世保線高架事業7千万円など、私から言えば、良く、既存の事業に活用できた后感心している。

提案 その他プラ容器で ごみ減量化を!

私は、最近まで、大きな勘違いをしていた。それは、H13年ぐら

いから始まった。容器リサイクル法に伴う分別回収や紙・古布の地区回収により、可燃ゴミは、減少しているものと思っていた。

今回、3期生議員として、環境問題の委員長になり、新市のごみや水環境について勉強会を開いたが、そこで、初めて、燃えるゴミの排出量が、右肩上りで伸び続けている事を知った。

そこで、対応を考えるのだが、まだ、市が本格的に分別に、取り組んでないのが、生ごみとプラスチック類である。

ただ、北方町では、昨年よりプラスチックの分別を試行している。また、市長の具約42にもプラスチックの分別が上げてあった。

そこで、まず、私としては、プラの分別を進めねばと調査すると、北方の様に、袋やおもちゃなど混合して集め処理を業者に出すと、相場が1t当り3万円(市の現契約は2万円)もかかり、一方

柞藤クリーンセンターで焼却すれば1t当りの1万5千円と安く、苦労して分別した割には、逆に処理費が増大するとの矛盾が判った。

そこで、私の提案として事業者が、リサイクル料金を負担している。袋やケースなどの容器包装をリサイクル協会に再資源化適合物として出せるものを分ければ、1t当り、格安の4800円程度で出せるので、来年度から、全市の他のプラ容器を回収し、ゴミの減量化を提案した。

提案 公共下水道の前倒しや区域拡大を 特例債でスピードアップし節約を!

武雄市の合併浄化槽の毎年135基程度の整備や、山内町の農業集落排水の整備で、旧武雄・山内衛生処理組合のし尿処理場(アクロスプラザ武雄の近く)への処理量も減少していると思っていた。

しかし、まだ、公共下水道や農排などの整備が遅く、くみ取り式のトイレが、水で流す簡易水洗に切り替えられ、し尿の量として増加していると言う。

また、洗浄するために、水で薄められ少しいきな水になる為に、逆に微生物での分解が悪いのでエタノールを投入し、わざわざ、富栄養化させ、処理をしているなど、笑い話の様な状況と言う。

私の考えでは、北方町の加入する、柞東衛生処理場(江北・白石・大町等)日処理量1000tが今年度、建設費の支払が終り、今後、新たな処理場建設の話が上がると思われる。一方、し尿処理場は、大阪で極端に高額な談合が摘発されたように、高い場合は、1000t規模で60億程度の時もあり、その20%を利用して北方町分12億円の負担も考えられる。

そこで、理想を考えれば、柞東衛生処理場の再建設には参加せず、武雄の処理場日量98tを20%減量化して、北方分を武雄の処理場に対応する。

その為には、し尿処理場に、搬入する、し尿はもちろん、合併浄化槽汚泥や農耕汚泥を増加させない方法で、水洗化を始める事も必要になる。

そこで、私の提案ですが公共下水道は、別に処理場を持つので、公共下水道の事業拡大により、くみ取りトイレの簡易水洗を減少させ、武雄のし尿処理場に余裕を持

下水道債を活用

市負担 28%	交付税 22%	補助金 50%
下水道債事業の市負担分の特例債を活用し入れる。W活用すれば、市実質負担は全事業費の28%の中35%となり、事業費の約10%の市持出しで、事業ができるので、同じ元手で、約3倍のスピードアップが可能。		
市負担 35%	合併交付金 65%	

(実質負担)



下水道処理場の今

ミニ情報コーナー

★誘致企業、来年3月公表?

今議会でも企業誘致状況の質問があり、市から年度末の公表の示唆。

★飛龍窯改築に宝くじの補助金

今議会、世界一の飛龍窯4窯の内、宝くじから2200万円の補助を受けて、市も助かった。

★保養村モノレール冬場は土日祭

今議会、条例改正され、11月から(正月4日をのぞく)2月中は、土日祭日の運行のみとなった。冬場の客があまりないので効率化した。

★旧市町のごみ袋の値引き販売。

市長が打出した旧袋の活用策だが、現在の条例では規格が35と20しかないため新たに30と一袋25円とし、その2割引き程度で、売り出す方針。山内町分が多く、買いたい人は、山内町の店へ。

★武雄のやぶさめ観賞席に百万円

市長の方針で、武雄のお祭を観光客に見てもらう為に、仮設で作る。一席500円を予定。

★武雄市文化会館の節水に着手

今回、約50万円かけ、セラミックの節水器、水道蛇口やトイレに陶器製の節水コマなどを付けて水道料金の削減に取り組む。

これまで、武雄市は水余りで、使用拡大はあっても節水は取り組んでなかった。市も、こっそり節水せず、市全体で節水しては?

★新武雄温泉駅は、20年春完成へ

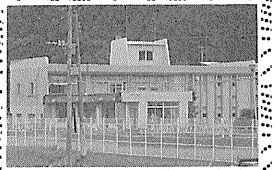
南国ビルオーナーが事故で亡くなられ、どうなるかと心配していたが、その直前に話し合いが付いていたため、未接続の市役所横の高架も来年の3月までには完成。

H19年には、レールの整備と、新駅舎の工事に着手し、H20年春には完成する模様。

また、市長の提案の駅南口の、大楠植樹は、幹1m程度の模様。

武雄市水道事業50年に1度のチャンス!

日本一高い水道料金を解消へ



提案 淵ノ尾浄水場(23億円)の不用な改築をせず、旧3市町の水源統合

水道料金は自治体の経営能力

図書館にある、日経新聞社発行の全国自治体ランキングを見ると公共料金ワースト1位に武雄市が掲載されているのを見て、議員の一人として、何が何でも、改善しなければと思います。これの最大の要因は、水道料金にあります。選挙中にも、チラシに記しましたが、水道料金は、基本的にかかった経費を受益者の市民から集める形になっていて、各自治体の経営能力のバロメータでもあります。さらに、これからの時代は新型交付税に変わり、水道事業以外も独立採算性の強いものになる可能性も高く、まず、この水道料金を下げる為に経営改革することが、武雄市の将来を良くする第一歩と考えます。

ちなみに、水道料金の現状は、給水人口510万人の自治体で20㎡で、高料金1位が、武雄市で5953円で、2位の、登米市(宮城県)5110円で、1位と2位の差が800円以上もあり、ぶつちぎりのワーストワンです。

一方、全国の市と比較すると、1位は、先ほど財政破綻をニュースで報じられた、夕張市が6048円で、2位が武雄市で料金差は95円と接近している所から見ても、武雄市水道の改革の必要性が見て取れると思います。

水道料金が低い理由

過剰設備と人件費

経営改善は、その原因を見つければ、8割は解決したも同じ。そこで、武雄市水道高料金の原因を考えると、毎年、決算認定の、監査委員意見書で指摘されているように、施設の過剰投資により、施設の稼働率が、旧武雄市で51%

山内町61%、北方町で61%と低く、利用しない水の費用まで住民が負担している状況。

また、合併前のデータであるが、損益に計算される職員数も旧武雄市は、17人おり、同規模の多久市6人、鹿島市9人と、人件費が多い事も高料金の原因と考えられる。

また、見方を変えれば、過剰な施設を動かすには、過剰な人員がいるわけで、原因は1つなのかもしれない。

なぜ過剰設備になったのか?

使用水量予測違い

高度経済成長の時代、水道事業を所管する、旧厚生省が、今後水道等、生活用水の需要が増大するとして1日1人当りの使用水量を600ℓと想定し各自治体が、それを基に施設の整備を行っていたと言った。

しかし、現実には、以前のように湯水のように使うとの感覚はなくなり、あらゆる家電製品が節水型になり、約半分の330ℓ程度の利用しかなく、武雄市と同様の整備を行なった自治体は、使用水量の2倍の水を抱え、過剰投資になっている所も全国的に多い。

その責任を感じてかなのか分らないが、国は、特に水道料金が低い所には、高料金対策の交付金を出して最低限の手当をしている。

給水人口の予測違い

次の要因として、給水人口予測の、違いによる過剰設備もある。

武雄市で、約10年前に作られた第4次の統合計画(マスタープラン)では、市の発展を夢見て、約3万5千人の人口を、10年後に4万2千人に増加すると目標を立てた。私も、当時、一般市民だった

が、夢は大きく、5万人を超えるぐらい計画して欲しいと、単純に思っていた。

しかし、この夢の数字が、引いては水道施設整備の規模を決める基礎のデータとなり、現実には3万4千人と人口は減少しているのにもかかわらず、計画目標の4万2千人に増加するとの夢の数字を基に、過剰な設備がなされて水道料金にはね返って来ている。

施設の重複保有

全国の高料金のランキングに、佐賀県や山形県の自治体が多かった、H8年頃、議員の視察で、山形県の上山市に、行財政改革の視察目的で行ったのだが、先輩議員は調査項目以外は聞くなとの事だったが、あえて、水道高料金の原因を尋ねると、広域水道の受水費と自己水源のダムや浄水場との二重投資による経費の増大によるものとの説明だった。

武雄市も同様で、淵ノ尾・若木の自己水源による浄水場に加え、西部広域水道もH13年より供給を受けている。

具体的な施設の利用率も、旧武雄市では39%と少なく、例えば乗らない車を2台保有し、維持している状況。伊万里市84%や多久市78%に比べれば非効率率は明白。

提案 水道料金低減へ私の方策

要は、先の問題の克服が解決策

- ①使用水量の適正予測
 - ②給水人口の精査
 - ③施設の統廃合
 - ④人件費の削減
- の4項目についての私の提案を示してみたいと思います。

【使用水量】1人1日400ℓが最適

最近の旧市町での1日1人当り

の最大給水量は、364ℓである。農業集落排水の進んでいる山内町でも376ℓなので、今後の計画水量としては、400ℓもあれば大丈夫である。コンサルタントは、高目の500ℓを提案すると思うが、すでにダムなどの水源は所有しているの、実態に応じて修正し、浄水場も増設可能な、膜処理方式に一部変えれば問題ない。

【給水人口】52,000人で

合併協議会の資料によれば、現人口から計算するコトール法での10年後の2015年には、約4万9千5百人に、現在より3千人減少すると試算している。

一方、新武雄市の将来目標は、行政サービスや少子化対策や企業誘致で3千人増加させ、10年後には、現在の5万2千4百人を維持するとの計画である。

目標数字の実現性を、私は全面的に信用していないが、現在と同人口ならば、水道供給は、継続しているの、目標の給水人口を、しばらく5万2千人程度に設定するのは止むおえない。ただ、それ以上に市が、目標設定するならば、その計画分は、現利用者負担でなく、市が負担すべきと考える。

【施設の統廃合】

私の想定で行けば、1日400ℓに、人口の52,000人をおかけると、新武雄市の1日の最大の必要水量は、20,800ℓになる。

現在の供給可能な水量は、

旧武雄市に、	23,593ℓ	あり
①淵ノ尾浄水場	11,400ℓ	
②若木浄水場	6,000ℓ	
③西部広域水道	6,193ℓ	
旧山内町に、	5,600ℓ	あり
④大野浄水場	3,000ℓ	
⑤大走浄水場	1,800ℓ	
⑥水尾浄水場	800ℓ	

旧北方町に、3,111ℓ ある

⑥西部広域水道 3,111ℓ

新武雄市の合併で、32,304ℓ供給が可能であり、必要水量を引くと、11,504ℓ分は施設を統廃合できると考えられる。

旧武雄市の計画では、淵ノ尾浄水場を、23億円かけて電気設備と監視装置を整備する計画で、基本設計に入っている。私は以前より、他議員数名と統廃合なしの再整備に反対して来た。

合併すれば、水道施設の統合で、たとえ淵ノ尾浄水場に23億円を投入せず、休止しても、対応できると考えるからです。

前の計算で、11,504ℓは余るわけで、淵ノ尾浄水場、(11,400ℓ)は、不要になります。また西部広水が、佐賀導水事業(筑後川と、現在利用している嘉瀬川を導水管で継続する。)が完成すれば、さらに約1,000ℓの受水せねばならないし、西部広水は、1700ℓ程度で追加購入ができるので、心配はありません。

作成後記と今後のプラン

今回の通信は、一部佐賀新聞をのぞく、西日本・毎日・読売・朝日新聞での折込みになりました。

もし、必要な方がありましたら手配り、郵送等しますので、ケイタイ090・5083・0793まで、お電話下さい。

また、区長さんに配付する方法は、勝手に仕事を増す事になる為見送りました。

その代わりに、旧市町において自ら配付することにしました。

11月1日ゆめタウン前・2日Aコープ前付近・3日さきの森公園付近で、12時14時と17時19時の予定。今後、インターネット等を具体的に検討します。